

日本ハードウェア(株)



会社概要

事業内容 金属鍛造用金型
 設立 平成元年12月(鹿児島工場)
 代表者 代表取締役社長 小川益治
 鹿児島工場長 矢野佳裕
 従業員数 52名(鹿児島工場)



▲工場を案内していただいた代表取締役社長の小川益治さん(写真左)鹿児島工場長の矢野佳裕さん(写真右)



▲一般鍛造金型および部品図 世界からもその技術は認められています。



▲NC装置の付いた旋盤や研磨機、放電機などが並びます。

日本ハードウェア(株)鹿児島工場にお邪魔いたしました。同社は、超精密加工を要する技能者を中心とした集団で、主に自動車などに使われる部品の金型の製作を行っています。名古屋で昭和36年に創業を開始しており、途中業態を変更し、現在に至っています。平成元年に、広い土地と若い人材を確保するために本町永吉に鹿児島工場を建設されました。

金型は、ものづくりの原点ともいわれ、あらゆる素材をいろんな形に変えて、量産を可能にするものです。敷地内には、5つの工場が建設され、設計・削る・研磨・仕上げなど様々な工程を通り、製品化されていきます。金属の材質による膨張・伸縮の違いを読み取り、正確にその誤差を計算しながら、設計・加工し、チェックを繰り返し行ないます。その精度はミクロンの世界なのだそう。商品アイテムは、数千種類に及び、それらは、安心して使える部品かどうか、厳しい点検を繰り返し、徹底した品質管理を行なっています。これらの部品は、全国の自動車部品メーカーに納品され、私たちが日常利用する車の一部となっています。

現在、鹿児島工場の従業員数は、52人でその多くが大崎町に在住し、若者定住・雇用創出に寄与しています。昨年11月のふれあいフェスタで披露した「テオヤンセン」の提唱する『風で動くロボット』は、鹿児島大学理工学部、協力のもと、癒しの分野を思考するために製作されたもので、地域活性化や新しい産業に繋がる何かを日々模索しているそうです。小川益治社長は、「今後、景気回復に合わせ、拡大路線を進み、地域に親しまれ、愛される企業になりたい。」と話してくださいました。



▲徹底した品質管理にこだわります。



▲ハードウェア(株)が製作した風で動くロボット